

南阿波定住自立圏共生ビジョン

「住む人、来る人の「心」をつむぐ、
やすらぎと活力の「光」あふれるネットワーク」

わが国の総人口は、今後急速に減少し、少子高齢化の急速な進行が見込まれる中、地方圏の将来は厳しいものと予想されています。都市圏への人口流出を食い止めるとともに、新たな交流人口の創出が喫緊の課題となっています。

そうした中、国が掲げた定住自立圏構想に呼応し、平成22年3月に阿南市が中心市宣言を行いました。

この構想は、中心市において圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備するとともに、周辺市町村においても必要な生活機能を確保しつつ、さまざまな地域資源を活用し地域の魅力を向上させるため、互いに連携・協力する「集約とネットワーク」の考え方で、圏域全体の活性化を図ろうとするものです。

そういった考え方にに基づき、阿南市と隣接する那賀町、美波町で定住自立圏について協議を開始し、互いの意思を尊重した具体的・有効的な役割分担

により、圏域内の住民が安心して定住できる活力ある圏域づくりをめざして、平成23年3月に阿南市と那賀町、美波町とそれぞれ圏域の形成協定を締結し、同年9月に策定した「阿南・那賀・美波定住自立圏共生ビジョン」に基づき、平成24年度から5年間の計画で取組を実施してまいりました。

そのような中、次期共生ビジョンの策定に先立ち、本年3月25日に阿南市は那賀町、美波町との既存協定の変更協定を締結するとともに、かねてから定住自立圏についての協議を進めてきた牟岐町、海陽町との新たな枠組みとしての定住自立圏形成協定をそれぞれ締結いたしました。

このたび、圏域が1市4町になったことに伴い「南阿波定住自立圏」として新たなスタートを切るとともに、本市を中心市とする定住自立圏構想の取組としては第2次の計画として、新たに「南阿波定住自立圏共生ビジョン」を策定いたしました。

ビジョン策定に幅広く 意見集約

「定住自立圏共生ビジョン」を策定するにあたり、共生ビジョン懇談会（医療・福祉・教育・産業振興・地域公共交通等の各分野の代表者など1市4町から25人の委員で構成）で意見交換を行ったほか、パブリックコメントで圏域の皆さまからの意見を広く求めました。



【定住自立圏構想とは】

地方圏において、安心して暮らせる地域を各地に形成し、地方圏から三大都市圏への人口流出を食い止めるとともに、三大都市圏の住民にもそれぞれのライフステージやライフスタイルに応じた居住の選択肢を提供し、地方圏への人の流れを創出するため、全国的な見地から推進されている構想です。「中心市」と「周辺市町村」が、1対1の協定を締結することを積み重ね、圏域を形成します。

具体的には、「中心市」の都市機能と「周辺市町村」の農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用し、その集約とネットワーク化により、相互に役割分担し連携・協力していきます。

このように、圏域全体で必要な生活機能を確保することにより、地域住民の命と暮らしを守り地方圏への人口定住を促進する政策が定住自立圏構想です。

圏域構成市町の概況

阿南市 富岡町や橘町には市街地が形成され、産業が盛んで、阿南市に本社をおく日亜化学工業株式会社のLEDは世界トップクラスの製造量を誇り、LEDを活用した「光のまち阿南」の取組は全国から注目されています。農産物では、全国有数のタケノコ産地であるとともに水稲のコシヒカリも県下一の生産量を誇り、水産物では鱧の漁獲高が日本有数です。また、北の脇海水浴場をはじめ、伊島、蒲生田岬、四国八十八箇所霊場の「太龍寺」や「平等寺」など観光資源も豊富です。

那賀町 地域の9割以上が森林の中山間地域で、国定公園である剣山周辺では貴重な野生動物植物が生息しているほか、高の瀬峡や剣山スーパールート、清流がつくる大釜の滝などは紅葉の季節には優れた景勝地です。農産物では木頭ゆずをはじめ、オモト、ケイトウ、茶の有数の産地です。また、町内の各集落に現存する45の農村舞台では復活公演も盛んに行われています。

美波町 古くから漁業が中心で、漁具・漁法が発達し、延縄定置網、和船の建造が工夫されています。良質な漁場環境のもと、高品質なアワビや伊勢エビなど魚種も豊富で海産物の豊かな町です。また、観光地として大浜海岸、田井ノ浜海水浴場、千羽海岸や四国八十八箇所霊場第23番札所「薬王寺」などを有し、年間100万人近い観光客が訪れています。



※人口：H27 国調人口（速報値）
面積：国土地理院・全国都道府県市区町村別面積調（H27.10.1 現在）

牟岐町 室戸阿南海岸国定公園の白眉である景勝・八坂八浜はサーフィンのできる内妻の浜から海陽町三浦の浜に至る12キロメートルの海岸線で、整備された国道によりドライブに最適なルートとなっています。連続する岬と入り江の美観は、白砂青松の姿を昔のまま伝え、新旧の調和を見せています。沖合いには自然色豊かな3つの島（出羽島・津島・大島）が浮かび、たくさんの観光客が訪れています。

海陽町 北部・西部にあたる山地は1000メートルにおよぶ緑豊かな山々がそびえています。これらの山々を水源として、地域の中央には北から南に海部川が、南部では西から東に突喰川が太平洋に流れ込んでいます。青く美しい海岸は室戸阿南海岸国定公園に指定され、海岸は数々の岬や入り江を有する美しいリアス式海岸となっています。

事業計画は平成29年度から5年間

“住む人、来る人の「心」をつむぐ、やすらぎと活力の「光」あふれるネットワーク”を将来像に掲げ、それを実現するため、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つの政策と15分野からなる37事業が盛り込まれました。圏域の課題とその対応策を考察し、政策分野ごとに1市4町の役割分担が示され、それぞれの関わり方が明記されています。

本ビジョンは、8月25日に阿南市議会に報告を行い、市ホームページで公表しました。今後、幹事会や担当者部会等で具体的な事業実施体制の調整や予算編成を行い、平成29年4月から事業着手します。事業実施にあたっては、P D C A（Plan[計画]→Do[実行]→Check[評価]→Action[改善]）サイクルにより、必要に応じて計画の見直しを行うこととしています。

南阿波定住自立圏共生ビジョン取組事業の一覧

①生活機能の強化	医療	②結びつきやネットワークの強化	地域資源を活用した地産地消の促進及びブランド化・6次産業化、継業支援等による地域産業の持続・活性化
	1 地域医療啓発・連携等支援事業（保健センター）		21 地元農水産物魅力アップ事業（農林水産課）
	2 医師確保対策事業（保健センター）		移住交流の推進
	3 阿南医療センター整備支援等事業（保健センター）		22 空き家情報の連携事業（定住促進課）
	福祉等		23 婚活支援連携体制整備事業（定住促進課）
	4 こども園等広域入所に関する連携事業（こども課）		24 定住促進啓発事業（企画政策課・定住促進課）
	教育		観光ネットワークの拡充
	5 図書館相互利用促進事業（図書館）		25 野球のまち阿南推進事業（野球のまち推進課）
	6 図書館蔵書充実事業（図書館）		26 スポーツ大会交流促進事業（スポーツ振興課）
	産業振興		安全・安心
	7 広域観光圏実現事業（商工観光労政課）		27 教育・啓発のための出前講座、講演会等の開催事業（市民生活課）
	8 遍路道等文化財活用観光振興事業（文化振興課）		28 阿南市消費生活センターの周知及び利用推進事業（市民生活課）
	9 鳥獣被害防止対策事業（農林水産課）		公共施設の相互利用
	10 企業誘致広域プロジェクト事業（企業振興課）		29 スポーツ施設相互利用促進事業（スポーツ振興課）
	11 産学官連携企業誘致等促進事業（企業振興課）		30 火葬場使用料軽減事業（葬斎場）
環境	31 子育て支援センターの相互利用に関する連携事業（こども課）		
12 竹資源等有効活用推進事業（農林水産課）	32 女性支援パートナーシップ事業（人権・男女参画課）		
大規模災害支援体制の充実	③圏域マネジメント能力の強化	圏域内における人材育成	
13 大規模災害時の相互応援支援体制整備事業（警防課）		33 職員人材育成事業（人事課）	
14 防災対策相互支援基盤整備事業（防災対策課）		34 職員研修参加交流事業（人事課）	
15 災害時水道復旧相互応援体制の整備事業（防災対策課・工務課）		35 廃棄物の不法投棄撲滅に向けてのリーダー育成事業（環境保全課）	
②結びつきやネットワークの強化		地域公共交通	36 成人大学講座連携事業（生涯学習課）
		16 圏域内運行バス等公共交通調査研究事業（定住促進課）	圏域内市町村の職員等の交流
		17 生活交通確保維持事業（定住促進課）	37 人事労務担当職員研修（交流）事業（人事課）
		道路等の交通インフラの整備	
		18 高速自動車道整備促進事業（特定事業推進課）	
19 国道55・193・195号整備促進事業（土木課・特定事業推進課）			
20 県道（主要地方道）整備促進事業（土木課）			

※取組事業名の後のかっこ内には、本市における主たる担当部署名を表示しています。